

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 5 No 02

4 3 号

平成9年 2月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu/k/>

子ども病院を宮城にも

院長

今回は「子ども病院」について話してみます。河北新報の1月8日号夕刊の第1面に載ったので、御存知の方も多と思います。

全国各地に20施設以上の小児病院（こども専門の病院）がありますが、東北には一つありません。小生は、国立小児病院で勉強し、その後新生児を専門にしてみました。国立小児病院は、日本で初めての「子ども病院」で昭和40年にできました。総合病院と同じで、産科と老人を扱う科以外は、すべてそろって診療科目は10以上あります。小児病院で勉強できたことが現在につながっているため、「子ども病院」には人一倍関心があります。

小児科を専攻している私たちが、声を大きくしてもなかなか子供の特殊性を認めてくれません。たとえば病院でのことを考えてみましょう。レントゲンや検査の器械はほとんど大人専用で作られています。検査の台に昇ることや検査のための採血量を何とか工夫して使っているのです。トイレにしても同じで、子供のためのトイレを用意しているところはあまりありません。健康なら我慢すればいいのですが、病気の子供たちです。また総合病院の中での小児科の立場は決してよいものではありません。出生率が低下し、子どもの数が減少し入院患者の数が減ってきているのです。東京などでは小児病棟が閉鎖された話が聞こえてきます。仙台では閉鎖した話は聞きませんが、小児病棟が空くと大人が入院することもあるようです。動けない子どもばかり入院しているわけではありません。安定期に入れば子どもは遊び回るので、大人と一緒に遊ぶこともできません。でも遊ぶ場所が無い病院もあるのです。プレイルームといって子どものための部屋を用意してある病院もあります。入院が長期になれば、学業の問題や精神的な問題も生じてきます。ケアするための人（保母等）が必要となってくるのです。そこまで考えると、やはり子

も専門の病院が必要となるのは当たり前のことです。

宮城県における「子ども病院」は、県小児科医会が平成4年に設立の提言を行いました。その後県母子総合医療センター設立推進協議会が中心となって進めています。県の予算に調査費が計上されましたが、具体的な構想はまだのようです。その大きな理由は、経済的な問題です。「子ども病院」は試算によると赤字経営となることです。もちろん設備や人件費を考えれば仕方ないことです。

最近福祉という言葉を見ない日がありません（良い意味でも悪い意味でも）。人口の老齢化のため、福祉という言葉自体がお年寄りの方を向いています。西暦2050年には、3人に1人が65歳以上となるという報告が出されました。今の私たちの問題ではなく、今の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちの問題なのです。出生数が低下しお年寄りが増えれば、子どもたちの負担がだんだん重くなるのです。そんな子どもたちのために、今のうちに「子ども病院」を造ってあげることも福祉の一つです。県や厚生省で問題となったことを考えれば、お金のやり繰りは何とかなるのかも知れません。

窓口で署名運動を行っているのを御存知ですか？「子ども病院」の設立はわれわれ医師だけでなく、お母さんたちの協力も必要です。ぜひ署名運動に御協力をお願いいたします。署名だけでなく、何かの折り「子ども病院を、宮城にも」と声を上げて下さい。

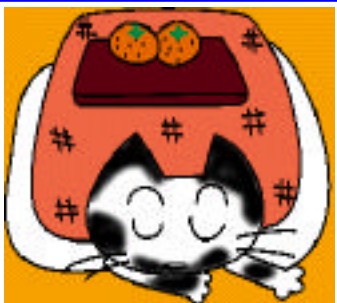
また雑誌に載りました

先日から雑誌に載った紹介をしていました。読んだというお手紙も頂きありがとうございました。（菊田さん）今度は、朝日新聞社発行のインターネット雑誌『DORS』1月29日発売の3月号に、当院のホームページが紹介されています。興味のある方はご覧下さい。

お母さんの勉強会について

御存知の方も多と思いますが、お母さんの勉強会を以前開催して、しばらくお休みにしていました。当院や福沢市民センターをお借りして、病気や症状の対処法等について話をしました。

勉強会を再開したいと思います。テーマ等希望がありましたら、投書箱までおねがいします。



読者の広場

今回の一面記事の「こども病院を宮城にも」に関連して、12月に石川さんから投書を頂きましたので紹介いたします。内容は、「自分が妊娠してはじめて、こんなにも街に妊婦があふれたのかと気づき、子連れになると今度はおんぶやだっこ、ベビーカーの人に目がいき、義母と同居して介護するようになるとお年寄りの姿が気になりはじめ...と、何かと自分の身近にならないと、心配したり本気で問題を考えようとしたりできない身勝手さを感じる今日この頃。（省略）そこで質問なのですが、仙台あたりで長期入院が必要な子どもたちは、一体どんな病院に入院しているのでしょうか？子ども病院という動きもあるようですが、現状ではどんな病気の子供たちがどれくらい、どんなふう（大人と一緒に？小児病棟に？）入院しているのでしょうか？（省略）そして要望です。「子ども病院を」という話が具体的にできるようでしたら、（是非なってほしいものです）、是非その際には病院のスタッフの中に、保母も大勢（！？）くみいれていただけるよう働きかけて下さい。他の地域にも、保母を少人数ながら置いている病院もあるようです。全く不勉強で、各々のなかみもわからず、こんなこといっちゃあおこがましいという感じもしますが、よろしく願いいたします。（省略）」

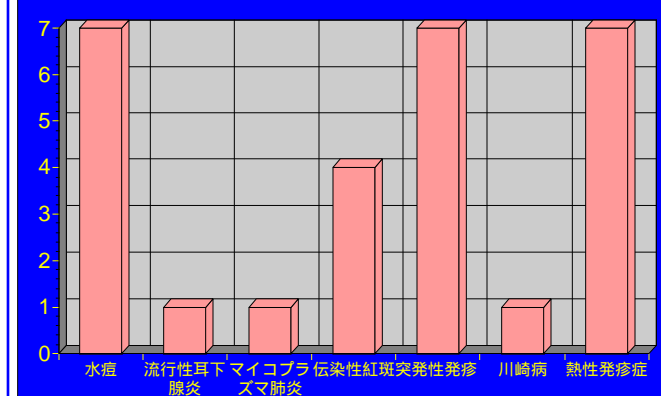
子ども病院の実情については、一面に書いたとおりです。子ども病院の設立だけでなく、要望にもこたえられるよう努力していきます。投書ありがとうございました。

以前に約束した寺本さんからの投書の、医者になった理由と看護婦になった理由をお答えしたいと思います。

小生が医者になった理由は、小さいころから医師である父の姿を見ていて、自然とそうってしまったというのが本音です。小児科医を選んだ理由は、まず第一に子どもが好きだったからでしょう。もう一つは命です。命の重さには差はないことも確かです。しかし長い将来と先の短い大人を比べて、その将来を明るくすることの意義の方が大切と感じられたからです（これを読んで立腹する人もいるかも知れませんが、お許し下さい）。看護婦は中米君が代表で書いてもらいました。「私は母子家庭に育ち、母親は女手一つで私と姉を育ててくれました。その母が、高校2年の時癌を患い入院の繰り返しが続きました。病床にいる母を看病し、自分の未熟さを感じ看護の道を選びました。仕事をしながらの勉強だったので、なかなか母の看病をすることはできませんでしたが、看護婦として働いていることを天国にいる母が一番喜んでくれていると思います。小児科を選んだ理由としては、こどもが大好きだからです。また今後の生活の中で役立つ部分がたくさんあると思ったからです。看護婦としてまだまだ未熟な私ですが、看護婦になって本当に良かったと思うように努力したいと思います。」

他にも山田さんのお手紙、大立目さんと石川からの写真、菊田さんの投書ありがとうございました。看護婦の中米のお腹がだんだん大きくなっているのに気付かれた方も多と思います。お気遣いのお手紙と投書を寺本さんと塩田さんより頂きました。他にも言葉でも頂いています。本人に代わってお礼を申し上げます。ありがとうございました。

1月の感染症の集計



昨年12月と比べると、インフルエンザはかなり減少しています。1月末現在ほとんど見られなくなりました。老人施設での重症化が噂のようです。今後増えるかどうかは、はっきりしていません。

その他特に流行している病気はありませんが、施設によって溶連菌感染症や流行性耳下腺炎が流行しているとの話を聞きます。例年この次期に流行する、嘔吐下痢症は少しづつ増加しているようです。

「すこやかさん こんにちは」放送予定

皆さん御存知のように、院長は、教育委員会の家庭教育充実事業の「すこやかさん こんにちは」テレビ育児相談の部長をしています。放送は、

東北放送で午前10:00~10:30です。

上段はメインテーマ、下段はすこやか健康メモのテーマを示します。

2/8(土) じゃれあいふれあいたっぷりと歯の話

2/22(土) 働くお母さんたちへ母乳をスムーズに

興味のある方は、ご覧になってください。

編集後記

年が変わってからは、昨年の混雑が嘘のようです。毎日、一生懸命患者さん達と話をするようにしています。一体いつまで、続くのでしょうか、この余裕が？

やっとスキー場にも雪が、今がチャンスかも知れません。会ったら声をかけて下さい。



臨時休診のお知らせ

2月15日(土)は、都合により**午後休診**となります。御迷惑をおかけしますが、よろしく願いいたします。

育児栄養相談

毎週水曜日



かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 5 No 02

4 3 号

平成9年 2月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu/k/>

子ども病院を宮城にも

院長

今回は「子ども病院」について話してみます。河北新報の1月8日号夕刊の第1面に載ったので、御存知の方も多と思います。

全国各地に20施設以上の小児病院（こども専門の病院）がありますが、東北には一つありません。小生は、国立小児病院で勉強し、その後新生児を専門にしてきました。国立小児病院は、日本で初めての「子ども病院」で昭和40年にできました。総合病院と同じで、産科と老人を扱う科以外は、すべてそろって診療科目は10以上あります。小児病院で勉強できたことが現在につながっているため、「子ども病院」には人一倍関心があります。

小児科を専攻している私たちが、声を大きくしてもなかなか子供の特殊性を認めてくれません。たとえば病院でのことを考えてみましょう。レントゲンや検査の器械はもともと大人専用で作られています。検査の台に昇ることや検査のための採血量を何とか工夫して使っているのです。トイレにしても同じで、子供のためのトイレを用意しているところはあまりありません。健康なら我慢すればいいのですが、病気の子供たちです。また総合病院の中での小児科の立場は決してよいものではありません。出生率が低下し、子どもの数が減少し入院患者の数が減ってきているのです。東京などでは小児病棟が閉鎖された話が聞こえてきます。仙台では閉鎖した話は聞きませんが、小児病棟が空くと大人が入院することもあるようです。動けない子どもばかり入院しているわけではありません。安定期に入れば子どもは遊び回るので、大人と一緒に遊ぶこともできません。でも遊ぶ場所が無い病院もあるのです。プレイルームといって子どものための部屋を用意してある病院もあります。入院が長期になれば、学業の問題や精神的な問題も生じてきます。ケアするための人（保母等）が必要となってくるのです。そこまで考えると、やはり子

も専門の病院が必要となるのは当たり前のことです。

宮城県における「子ども病院」は、県小児科医会が平成4年に設立の提言を行いました。その後県母子総合医療センター設立推進協議会が中心となって進めています。県の予算に調査費が計上されましたが、具体的な構想はまだのようです。その大きな理由は、経済的な問題です。「子ども病院」は試算によると赤字経営となることです。もちろん設備や人件費を考えれば仕方ないことです。

最近福祉という言葉を見ない日がありません（良い意味でも悪い意味でも）。人口の老齢化のため、福祉という言葉自体がお年寄りの方を向いています。西暦2050年には、3人に1人が65歳以上となるという報告が出されました。今の私たちの問題ではなく、今の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちの問題なのです。出生数が低下しお年寄りが増えれば、子どもたちの負担がだんだん重くなるのです。そんな子どもたちのために、今のうちに「子ども病院」を造ってあげることも福祉の一つです。県や厚生省で問題となったことを考えれば、お金のやり繰りは何とかなるのかも知れません。

窓口で署名運動を行っているのを御存知ですか？「子ども病院」の設立はわれわれ医師だけでなく、お母さんたちの協力も必要です。ぜひ署名運動に御協力をお願いいたします。署名だけでなく、何かの折り「子ども病院を、宮城にも」と声を上げて下さい。

また雑誌に載りました

先日から雑誌に載った紹介をしていました。読んだというお手紙も頂きありがとうございました。（菊田さん）今度は、朝日新聞社発行のインターネット雑誌『DORS』1月29日発売の3月号に、当院のホームページが紹介されています。興味のある方はご覧下さい。

お母さんの勉強会について

御存知の方も多と思いますが、お母さんの勉強会を以前開催して、しばらくお休みにしていました。当院や福沢市民センターをお借りして、病気や症状の対処法等について話をしました。

勉強会を再開したいと思います。テーマ等希望がありましたら、投書箱までおねがいします。



読者の広場

今回の一面記事の「こども病院を宮城にも」に関連して、12月に石川さんから投書を頂きましたので紹介いたします。内容は、「自分が妊娠してはじめて、こんなにも街に妊婦があふれたのかと気づき、子連れになると今度はおんぶやだっこ、ベビーカーの人に目がいき、義母と同居して介護するようになるとお年寄りの姿が気になりはじめ...と、何かと自分の身近にならないと、心配したり本気で問題を考えようとしたりできない身勝手さを感じる今日この頃。（省略）そこで質問なのですが、仙台あたりで長期入院が必要な子どもたちは、一体どんな病院に入院しているのでしょうか？子ども病院という動きもあるようですが、現状ではどんな病気の子供たちがどれくらい、どんなふう（大人と一緒に？小児病棟に？）入院しているのでしょうか？（省略）そして要望です。「子ども病院を」という話が具体的にできるようでしたら、（是非なってほしいものです）、是非その際には病院のスタッフの中に、保母も大勢（！？）くみいれていただけるよう働きかけて下さい。他の地域にも、保母を少人数ながら置いている病院もあるようです。全く不勉強で、各々のなかみもわからず、こんなこといっちゃあおこがましいという感じもしますが、よろしく願いいたします。（省略）」

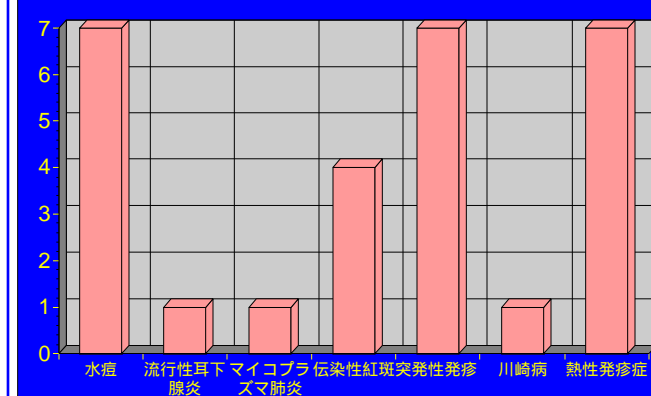
子ども病院の実情については、一面に書いたとおりです。子ども病院の設立だけでなく、要望にもこたえられるよう努力していきます。投書ありがとうございました。

以前に約束した寺本さんからの投書の、医者になった理由と看護婦になった理由をお答えしたいと思います。

小生が医者になった理由は、小さいころから医師である父の姿を見ていて、自然とそうってしまったというのが本音です。小児科医を選んだ理由は、まず第一に子どもが好きだったからでしょう。もう一つは命です。命の重さには差はないことも確かです。しかし長い将来と先の短い大人を比べて、その将来を明るくすることの意義の方が大切と感じられたからです（これを読んで立腹する人もいるかも知れませんが、お許し下さい）。看護婦は中米君が代表で書いてもらいました。「私は母子家庭に育ち、母親は女手一つで私と姉を育ててくれました。その母が、高校2年の時癌を患い入院の繰り返しが続きました。病床にいる母を看病し、自分の未熟さを感じ看護の道を選びました。仕事をしながらの勉強だったので、なかなか母の看病をすることはできませんでしたが、看護婦として働いていることを天国にいる母が一番喜んでくれていると思います。小児科を選んだ理由としては、こどもが大好きだからです。また今後の生活の中で役立つ部分がたくさんあると思ったからです。看護婦としてまだまだ未熟な私ですが、看護婦になって本当に良かったと思うように努力したいと思います。」

他にも山田さんのお手紙、大立目さんと石川からの写真、菊田さんの投書ありがとうございました。看護婦の中米のお腹がだんだん大きくなっているのに気付かれた方も多と思います。お気遣いのお手紙と投書を寺本さんと塩田さんより頂きました。他にも言葉でも頂いています。本人に代わってお礼を申し上げます。ありがとうございました。

1月の感染症の集計



昨年12月と比べると、インフルエンザはかなり減少しています。1月末現在ほとんど見られなくなりました。老人施設での重症化が噂のようです。今後増えるかどうかは、はっきりしていません。

その他特に流行している病気はありませんが、施設によって溶連菌感染症や流行性耳下腺炎が流行しているとの話を聞きます。例年この次期に流行する、嘔吐下痢症は少しづつ増加しているようです。

「すこやかさん こんにちは」放送予定

皆さん御存知のように、院長は、教育委員会の家庭教育充実事業の「すこやかさん こんにちは」テレビ育児相談の部長をしています。放送は、

東北放送で午前10:00~10:30です。

上段はメインテーマ、下段はすこやか健康メモのテーマを示します。

2/8(土) じゃれあいふれあいたっぷりと歯の話

2/22(土) 働くお母さんたちへ母乳をスムーズに

興味のある方は、ご覧になってください。

編集後記

年が変わってからは、昨年の混雑が嘘のようです。毎日、一生懸命患者さん達と話をするようにしています。一体いつまで、続くのでしょうか、この余裕が？

やっとスキー場にも雪が、今がチャンスかも知れません。会ったら声をかけて下さい。



臨時休診のお知らせ

2月15日(土)は、都合により**午後休診**となります。御迷惑をおかけしますが、よろしく願いいたします。

育児栄養相談

毎週水曜日

